

【前回連絡内容の一部】

○中学校用教科書
書写

発行者により従来と学年分冊の形態が異なるため、以下のとおり給与形態が異なることに留意すること。

- ・平成27年度に東書、大日本、三省堂、教出を使用している場合
第1学年及び第2学年に新たに採択した第1～3学年用教科書を給与すること。第3学年は第2学年で給与済みのものを継続使用すること。
- ・平成27年度に学図、光村を使用している場合：
第1学年に新たに採択した第1～3学年用教科書を給与し、第3学年まで継続使用すること。第2学年及び第3学年は第1学年で給与済みのものを継続使用すること。

【補足】

- ◆上記の記載の詳細は下記のとおり。
- パターン1（平成27年度に東書、大日本、三省堂、教出を使用）

平成28年度使用教科書として需要数の計上が必要な学年は以下のとおり

学年	平成28年度使用教科書の発行者				
	東書	学図	三省堂	教出	光村
第1学年	○	○	○	○	○
第2学年	○	○	○	○	○
第3学年	×	×	×	×	×

※「×」は既に給与済の教科書を使用すること

※第2学年の需要数計上方法は下記（☆）を参照。

- パターン2（平成27年度に学図、光村を使用）

平成28年度使用教科書として需要数の計上が必要な学年は以下のとおり

学年	平成28年度使用教科書の発行者				
	東書	学図	三省堂	教出	光村
第1学年	○	○	○	○	○
第2学年	×	×	×	×	×
第3学年	×	×	×	×	×

※「×」は既に給与済の教科書を使用すること

☆第2学年分の需要数の計上方法について

教科書事務執行管理システムにおいては、書写は第1学年の欄のみ入力可能となっているため、第2学年の欄に入力できない。

上記パターン1の場合、第2学年においても需要数を計上する必要があるため、第1学年の入力欄に第2学年において必要な冊数も合計して計上すること。第1学年分と第2学年分を合計して計上した場合、システムの整合性チェックが引っかかるため、整合性チェック結果メニューの該当箇所コメント欄に以下のコメントを記入してエラーを回避し、処理を続けること。

コメント欄記入例：第1学年●冊、第2学年○冊 計◆冊計上

○その他

平成27年度に東書、大日本、三省堂、教出の教科書を使用している場合、平成28年用教科書は第2学年用教科書も需要数を計上する必要がある。計上漏れがないよう十分注意すること。